

公益財団法人 「海原会」の沿革

- 昭和20年8月15日 終戦
- 昭和33年3月 乙飛18期生有志が「みやこ温泉」で会合
第1期生 野口克己氏の提案で「予科練雄飛会」が再結成される。
- 昭和37年5月12日 雄飛会幹事会開催 「雄飛会本部」設置
幹事長 野口克己 事務局長 長峯良斎
会計 堺 周一
監査 近藤悟郎 深沢政巳
- 昭和38年4月6日 雄飛会第1回幹事会 本部役員決定 於：尾崎記念館
会長 桑原虎雄 副会長 倉町秋次
幹事長 野口克己 事務局長 長峯良斎
会計 堺 周一
監査 近藤悟郎 深沢政巳
- 昭和38年5月11日 機関紙「雄飛」創刊
- 昭和38年12月8日 第1回予科練慰霊祭 ・ 予科練雄飛会全国大会開催 (於：靖国神社)
会員577名 来賓36名
(特別参加 甲飛、特乙飛 72名)
※予科練4会が協力して「予科練戦没者慰霊碑」建立を決意
- 昭和39年春 「予科練戦没者慰霊碑建立委員会」発足
(雄飛会本部移転 新宿区船町)
★ 慰霊碑建設場所を土浦駐屯地内武器学校と決定 (防衛施設庁より建設許可)
★ 堤 達男先生に予科練戦没者慰霊製作を依頼
- 昭和40年2月25日 「慰霊碑建立連絡会議」開催 (甲飛・乙飛・特乙飛・丙飛合同会議)
長峯委員長から建設準備の経緯が報告され、4会が協力して建設する旨が了承された。
- 昭和40年3月 「慰霊碑建立委員会」発足
- 昭和40年6月 「予科練戦没者慰霊碑建立趣意書」「建立基金ご芳援のお願い」の発送
- 昭和40年8月9日 鍬入れ式挙行 (於：武器学校)
桑原虎雄会長、岡 新次土浦駐屯地司令、天谷丑之助土浦市長、菊池朝三議長
阿見町長、古谷りん阿見町厚生保護夫人会会長、堤 達男氏
- 昭和40年8月17日 慰霊碑及び造園作業開始 (陸上自衛隊武器教導隊施工)
- 昭和41年2月 高松宮妃殿下土浦駐屯地訪問
妃殿下御歌
海原羅に はたおほそらに散華せし
きみら聲なくいく春やへ志

昭和41年5月27日 第1回全国予科練戦没者慰霊祭・慰霊碑除幕記念式典 開催 (於：武器学校)
高松宮妃殿下による除幕

防衛庁長官、陸海空各幕僚長、ご遺族約800名、同窓約2000名
靖国神社池田権宮司を齋主に幹部神職6名がご奉仕
以後この地を「雄翔園」と呼称する。

昭和42年5月27日 第2回全国予科練戦没者慰霊祭

「予科練之碑保存顕彰会」発足 予科練記念館「雄翔館」建設着手

昭和42年10月 東久邇聡子妃殿下(明治天皇第九皇女) 武器学校訪問

妃殿下御歌

親ならばいかにみるらんまなびやを
出てしままなるこの立すがた
みにかへて君がまもりし日の本の
さかゆくさまを見まをしとそ思ふ

昭和43年5月11日 予科練記念館建設の地鎮祭挙行

鍬入れの義 予科練之碑保存顕彰会会長 桑原虎雄

昭和43年11月24日 予科練記念館竣工式典及び慰霊祭 於：武器学校

名誉顧問 高松宮殿下、同妃殿下

ご遺族1,200名、来賓150名、同窓生2,100名、一般1,000名
妃殿下御歌

予科練を偲ぶ 喜久子

昭和43年11月24日

茨城県土浦なる元海軍航空隊の慰霊碑のかたへに予科練記念館の竣工し碑
の前にて慰霊祭ありし後記念館の開館式あり、その後遺族来賓の記念会食
ありし折によめる

はばたきし翼か減らず残されし遺品の前に涙して立つ

幼な顔永久にみ国のいしつゑとなりて残らむこゝのやかたに

予科練に子等を捧げし親たちの老いゆく面涙して見る

南より北よりこゝに集ひたる親の心を思ひみるかな

帰らざる子等を偲びて二十年に余る月日を母は老いゆく

国のため三人男の子をさゝげしと伝ひたる母と手を取りて泣く

大空に散りたる夫の独り子を育てし妻のまだ若くして

ひとり子を国に捧げし母にあふ慰さむるべき言の葉もなし

以後この記念館を「雄翔館」と呼称する。

昭和53年10月25日 **財団法人「海原会」設立**

昭和54年7月16日 **財団法人「海原会」設立記念式典** 於：日本武道館

高松宮殿下、同妃殿下ご臨席のもと、政界、財界、産業会の盟主を始め
全国各地から参集した同窓、ご遺族等約六千人の参加者により盛大に開催

平成22年11月5日 **公益財団法人「海原会」に移行**